

第5回香美市地域公共交通活性化協議会

議事要旨

日時・場所

令和5年12月25日（月）午後2時～
香美市役所3階会議室

次第

1. 開会
2. 議事
 - ①香美市地域公共交通計画の策定について
3. その他
4. 閉会
5. 配布資料
 - (1) 会議次第
 - (2) 第5章 地域公共交通計画に関する現状・問題点・役割の整備(一部) 資料1

会議状況



会議状況



議事要旨

1. 開会

- ・事務局：（開会挨拶）
委員の半数以上の出席で本議会は成立することを報告。
配布資料の確認。
- ・会長：（会長挨拶）

2. 議事

①香美市地域公共交通計画の策定について

- ・事務局：資料説明
第5章 地域公共交通計画に関する現状・問題点・役割の整備 資料1

【質疑応答】

- ・委員： 179 ページの施策について聞きたい。先程、事務局から『駅・待合室・バス停の整備』という事業名で説明があり、令和6年度に美良布(バス待合室)の整備と記載しているが、具体的に令和6年度に実施計画を行い、令和6年度中には完成という方向で進んでいるのか。
- ・事務局： 朝の連続テレビ小説『あんばん』が令和7年度の4月から始まる。特に、美良布(バス停)周辺は観光需要が高まり観光窓口ともなるので、令和6年度中に最低限の改修ができればと考えている。計画通り行くかは不明だが、令和6年度に実施したいと考えている。協議はもちろん必要だが計画通りいくかはわからない。
- ・委員： 市営路線バスの利用者から、美良布のバス待合室や併設しているトイレを何とかしてほしい(整備や改修)という声が大きくなっている。自分も利用することがあるが、決して子供や高齢者が利用できる環境ではないように思う。朝ドラが始まることを契機に、利用者(子供や高齢者)が快適に利用できる環境にしてほしい。折角、事業として令和6年度に行うのであれば、無理でも予算を盛り込んで令和6年度中(令和7年3月まで)に完成する方向で取り組んでいただきたい。そうすれば『あんばん』との相乗効果も表れてくると思う。
- ・会長： 頂いた意見を何らかの形に反映して進めていく。
- ・委員： 162 ページの計画の目標②で香美市の公的負担金が6年後も現状維持という事に疑問を持つ。基本的に人口は減っているが、様々な施策をする中で現状維持は無いと思う。最低時給が上がっているのに、公的負担が上がることを香美市が認識を持っていないと、話し合いをしても良い意見はでない。基本的に6年後に公的

負担が現状維持をいう事はないと思うが、その点はどう思っているのか聞きたい。

- ・事務局： まさにその通りである。公共サービスを行う上で受益者負担は大きい。当然、公的負担が大きくなると、市民の意見としてはこれ以上の公的負担は認めにくいところがあるので受益者に負担していただき、所謂サービス利用料を上げていく、または利用者を増やしていくことになる。これはあくまでも目安である。
- ・委員： 基本的に利用人数は増えないと思うので、利用者でそれを賄うというのは無理だと思う。『あんぱん』を契機にハード面を揃えてやっていくことも必要である。結局、現状維持だと事業者からすると少ない負担金で頑張っただけでは、時給も上がっていく状態では路線を減らすしかない。香南市に新規路線を増やすのであれば、公的負担金は上がってくるべきではないかと思う。
- ・会長： 確かに人件費と燃料費も上がってきている。現状を維持するには公的負担はもっと必要との意見があったが、この書きぶりはいかがなものか。
- ・事務局： 確かに公費負担が増えていくのは間違いないので、書きぶりを修正する必要があると考える。当然、公費負担はこの1億2,000万から増えていくのは間違いないと思うので、『収入を増やして公費負担を維持させていく』という書きぶりに修正する。

・会長： 現状と将来展望に合わせて修正をするという事をお願いします。

- ・委員： 161 ページ「(1) 交通手段の位置づけ」の下方、“その他”の箇所の『介護タクシー』を『福祉タクシー』に修正してほしい。またこの“位置づけ”の『この介護サービスにおける』という箇所を、前回書かれていた『高齢者や重度心身障害者また介護認定を受けている方などが、通院や買い物などをされる場合の交通手段として、福祉公共交通手段として役割を担うという事で介護認定の方も含めて、高齢者と重度の方も含めて』という文言に修正をしてほしい。

後 164 ページの『目標⑦市民と一緒に公共交通を作る』に関して、個人的意見になるが、地域座談会等で市民の声を聞くことは大変重要なことだと思う。また市民意識を持ってもらって乗り方教室などで、子供や高齢者の方に乗って体験してもらうことは、非常に利用頻度を上げていく上で効果があると思う。大変だと思うが、是非とも頑張してほしい。

164 ページの『目標⑨観光客に公共交通を利用してもらう』の公共交通を利用した観光客数の箇所で、(それぞれの観光場所で観光客に観光場所までのアンケート実施2日間)との記載あるが2日間は短いのではないかと思う。土日とかもあるので、せめて5日または1週間で実施すべきではないか。

- ・事務局： 書きぶりについては、「福祉タクシー」を「介護タクシー」と改める。座談会の開催については、頑張っただけで実施できるように努めたいと思う。

観光地でのアンケートについては、確かに2日間は少ない。観光地にアンケート箱を設置し回答を投函してもらう方法で実施日数を増やすことは可能だと思う。この2日間というのは、職員が観光地に行ってアンケートを実施するのが可能なレベルという事だと思う。やり方を変えてもう少し日数が増やせるように考えてい

く。

- ・会 長： 目標⑨のアンケート実施の目標値を人数で区切るのはやめた方が良いと思う。要は、人数が達成すれば目標を達成したことになる。それよりかは、ある断面をきってパーセンテージで考えるべきだと思う。例えば公共交通利用率10%を目標とし、「交通機関は何できましたか」という質問を一つ入れれば済む話で、そういうふうにとった方がバイアスは無くなるのではないかと思う。
- ・委 員： 163 ページの「目標④公共交通空白地域を解消させる」で、「5年間で新規系統を一本設置する」と掲げているが、公共交通空白地域を解消するのであれば、毎年PDCA サイクルの見直しを行っていけば良いと思う。個人的には数字目標よりは解消を目指していくような文言で表現された方が良いと思う。数値目標だと、香南市との接続が一本完成したら目標達成ということになる。あくまでも地域で困っている方の状況改善に持っていくことが公共交通空白地域の解消につながると思う。

後、全体的な説明を聞いて『あんぱん』で香美市が盛り上がり、それに対応していかないと感じる。この計画の説明の中では、観光がすごくそこに特化しているように感じられるが、昔からある龍河洞・アンパンマンミュージアム他いろいろな観光施設があるので、それを持続していけるようにイメージして計画の中でうたわれる方が良いと思う。一時的な観光需要で使うのは少し勿体ないような気がする。
- ・事 務 局： 公共交通空白地域の解消について、路線バスの新規系統数を0から1にするのは確かに無理やりなところがある。定量的な数値を記載すべきという公共交通計画の要請が求められ、事業の中でも路線バスの新規系統数を増やして公共交通空白地域を解消していきたいということで一本と記載している。これはすべて削除するという事で大丈夫か。
- ・委 員： 逆に公共交通空白地域の人数を把握しているのであれば、その数字を何人に減らすと記載するほうが良いと思う。
- ・事 務 局： それも考えた。委託業者に人口メッシュを使って現在の公共交通空白地域にいる人を算出してもらった結果、約4,100人いる。来年度からは市が単独で行う必要があるが、その技術を持っていない。直ぐにというのは無理だが、もし必要であれば導入していきたいと思う。それが現実に実行可能か否かというのはわからない。
- ・委 員： 折角調査された人口メッシュがあるならば、そこへ路線を引いたりエリアを設定したり、デマンド交通を貸し出したらといった方法で公共交通空白地域が解消されていくのではないかと思う。せっかく調査したデータがあるのに、全く活用されないで話しているような気がする。それを2番目に入れたら良いと思う。
- ・事 務 局： 公共交通空白地域の約4,100人のデータが活用できるように、どのように算出したかのデータを今年度中に貰い、新規路線ができた場合、バス停から300m圏域内の人口メッシュを算定し、公共共通空白地域の人口がどの程度減ったかを載せていく方が良いか。

・委員： その記載方法が良い。データを計画に盛り込み、そこで検証していき、公共
共通空白地域の人口がどれだけ減ったのか確認できるようにしたら良い。基礎
データがあるので、毎年人口調査を行う必要はないと思う。

・事務局員： 承知した。

観光について、『あんぱん』がクローズアップして書かれているとの事だ
が、5年間のうち2年間は特に大きなイベントとして具体的に記載している。
当然他の観光地(龍河洞・べふ峡など)への利用についても無視はしていない
が、今は具体的に記載するには至っていない。

・委員： 承知した。『あんぱん』が放映されるとの話で、令和7年度の事業が観光事
業だけ終わりそうなイメージがあったので発言した。

・会長： 人口メッシュに関して言うと山本委員の発言通りで、空白地域のメッシュを
リスト化しベースデータとして記載しておけば、引き継いだ人も読み取れる
し、新規に路線を引いた時にもこの人口メッシュの人たちの交通手段が確保で
きた、というのがわかりやすい。是非前半の部分は人口メッシュのデータを使
った具体的な数値に記載を修正すべきだと思う。想定する路線が1路線あると
すれば、目標数字も、『公共交通空白地域解消された人数 1,000人』と記載し
ておけば目標達成もわかりやすいのではないかと思う。

観光に関しては183ページ「事業名④公共交通マップを作成し配布する」と
あるが、転入者だけに配布するのではなく、市民全員も知るべきことである
し、観光客にも積極的に情報発信すべきことだと思う。また、観光地の人たち
も努力して公共交通を利用した行き方についてホームページに載せ、2年に1
回は更新するなどのステップがあっても良いと思う。是非に施策26個の内、
関係する施策にもそういったコメントを追記してほしい。それが山本委員に対
する回答になると思う。

・アドバイザー： ジェイアール四国バスの大柘線だが、名称変更はできないのか。

・委員： 路線名としては今変える予定はない。

・アドバイザー： 誰もがわかり受け入れやすい事を考えると、路線名を変えた方が良いと思
う。

目標②の公的負担額の目標値が現状維持となっている点は、例えば利用者1
人当たりでそれをキープすることにすれば、頑張ってる人を増やせれば、全
体の何か増えていくわけだし、そういう工夫ができるのではないかと思った。

折角、路線バスの新規系統として、公共交通空白地域の解消を目指すなら
ば、国が直接支援してくれるメニューにチャレンジしていく事をここに記載す
べきだと思った。確保維持事業であったり特定事業であったり、そういったも
のは地域公共交通計画に記載をしないとイケないので、それを記載しておけば
後で国から直接支援を受けられる可能性が出てくる。そういう意味でチャレン
ジするメリットがあるのではと思う。当然それには事務局との協議が必要にな
ってくる。

174ページの『事業名⑨運転手の適正配置』で、「事業者間で融通する協力

体制」とあるが、事業者間での運転手派遣はできるのか。

- ・事務局：現状、タクシー・バス運行事業者がいくつかあり、運転手不足に苦しんでいて、運行事業者間で運転手を派遣するような事があるというのを聞いている。実際に行われていて、それが可能かは運輸局の方へ何年か前に確認した。結果、大丈夫との話だった。
- ・アドバイザー：労働者派遣法が改訂され厳しくなったので、再度確認するかこの文言自体を削除したほうが良いのではないかと思った。
- ・委員：先程の説明だと自家用有償に限った話をしているが、見る人によれば、緑ナンバーの事業者同士(営業タクシー、バス事業者)で営業交換、派遣体制をとっているようにも見えるので、表現を変えた方が良いと思うが、この表現自体を削除しても良いかと思う。
- ・事務局：前回の会議でも記載していた。市が直接関わると労働者派遣法の関係とかも絡んできて、ものすごく壮大かつ複雑なオペレーションが必要になってくる。これについては削除する方向で進める。
- ・会長：180 ページ『事業名㉒高知工科大学との連携』の内容に書かれている4箇所の大学名を『西内研究室』に修正してほしい。私の研究室が窓口になり香美市の公共交通を注視し、必要に応じて新しいシステムを導入、そのための調査を実施、また学術的な貢献もできるよう、一緒に協働していく形にしたいと思っている。

173 ページ事業名㉑の2つ目の項目『鉄道や路線バス・市営路線バスの利用』とあるが、連ドラ重視でこれの観光客に路線バスの積極的な活用を呼びかけると、今まで利用していた客層を失うことになり、かなり損失が大きいのではないかと思う。2つ目の項目はあえて書く必要がないと思う。観光客が利用しやすい運行形態を考えるという事で、削除してはどうか。

177 ページ『事業名㉓市営エリア型デマンドバスの見直し』について、香美市の市民は利用できるのか。
- ・事務局：基本的に中山間地域に住む市民の方が利用できる。例えば香美市外に住んでいて、実家が中山間地域へ行くのであれば、地域外や市外の方でも登録が可能である。
- ・会長：香美市の市民で利用できなかったという声があったので、既存利用者は理解しているという前提ではなく、ルールの再確認という取り組みがあっても良いと思う。地元の人でも理解していない部分があるというのは事実なので、そこは改善していく必要がある。検討案の中に「既存利用者への利用方法の周知を図る」の文章を追加し実行してほしい。
- ・アドバイザー：167 ページ事業名㉑乗り方教室だが、事業の概要で「家族や親子、祖父母と孫で参加すると」と書いているが、そこまで具体的に書く必要はないと思う。もっと広い範囲での書きぶりで良いかと思う。
- ・事務局：書きぶりを変えて、広範囲でできるようにしていく。
- ・委員：市営路線バスは予約なし自由に乗れるが、市営エリア型デマンドバスは登録

制であり、ルールが統一されていない。誰でも共通に乗れる仕組みにできないかを伺いたい。

- ・会長： その通りで、市営エリア型デマンドバスを皆が共通に利用できれば良いと思う。
- ・事務局： バスを利用しないが登録はしたいという人（バスマニア）が増えて、市内に居住する人達の利用が阻害されてしまうのは問題と考え、利用者を限定して運用している。
誰でも乗れる市営エリア型デマンドバスにするとバスを1台増やさないとはいけませんが、運転手・公的負担の問題、また運行事業者ができるのかという事も考えないといけない。
- ・会長： バスマニアの方は登録だけで予約はしないのか。登録だけなら差支えないのではないかと。あるいはもう登録自体やめれば良いと思う。
- ・事務局： 具体的なバスマニアの方で香美市内に拠点がなく市外の方の登録は断ったので、実際のところ予約はしてない。
- ・会長： 施策として、登録の廃止を入れてはどうか。
- ・事務局： 市営エリア型デマンドバスに関しては、様々な検討事項があるため、その一つとして書くことはできるが、絶対実施するとは書ききれない。
- ・委員： 市営エリア型デマンドバスの趣旨は、路線バスとかで行けない場所に居住している方の足として運用している。誰でもいつでも行けるとなると趣旨が違ってくる。目的（誰でも共通に乗れる）は良いかもしれないが、費用面とかを考えるとそこまで広げるのは難しい。元々はタクシーがあるが、費用が嵩むので市営エリア型デマンドバスを導入した経緯がある。市外の方が安いから乗るといった問題でもないし、そこまで広げる必要はないと思う。
- ・会長： 例えば乗車場所が限定されているとか、行き先が山間地で住宅地の方に限定予定されているという事なら良いかと思った。
- ・委員： 限定となると広げ過ぎる部分が出てくると思う。実際タクシーも山間地まで来ているので、どこかで線引きは必要だと思う。現状、市営エリア型デマンドバスは、山間部の居住者の交通をしやすいのが目的なので、今ここで香美市がそれをやる必要はないかと思う。
- ・会長： 承知した。登録者の条件について、正しい知識を登録できる人に正しく周知するという事は、お願いしたい。
- ・委員： 冒頭の会長のあいさつで人口が1%ずつ減少している話があったが、高齢者が多いので人口的には1%だが、旅行や動けるなど利用する人口はもっと減ってくると思う。ではどうすれば良いか。観光客を増やしていくしか生き残る道はないと思う。香美市外に住んでいる人にも香美市をアピールしていく必要があると思う。とさでん交通や、当社の高速バスにラッピングをし、香美市アピールできたらと思う。
- ・会長： 継続して実施すべき観光政策として、移動手段を使って香美市を周知するという事だと思うが、それについては可能か。

- ・事務局：大栃線で走っているジェイアール四国バスについては、アンパンマンのラッピングが既に貼られている。市営路線バスについては、『あんぱん』に対しては対応できていないと思う。香美市全体をPRするところについてはまだまだ改良の余地があるのではないかと思う。来年1台にはバスの更新を考えているので、やり方についても検討していく。
- ・会長：市営路線バスではなく、既存の車両に香美市を宣伝するためのラッピングをしてはどうかという提案だと思う。
- ・委員：高速バスへのラッピングをイメージしている。香美市の施設の利用頻度が上がれば財源も上がると思うので、そこからバスの公的資金が増えていき、バスを維持できればと思う。
- ・事務局：施策の中には書ききれていない。今の趣旨では、高速・貸切バスでエリア外を走っているバスということで、本計画の中に記載する事は難しいかもしれないが、今後、市の事業の観光政策というところでそういった意見があるということは情報共有していく。
- ・会長：例えば173ページ事業名⑦観光まち作り関連なので、検討案に「香美市のアピールを進める」と記載しても良いが、実施主体が観光施設と書かれているので、その部署と協議してどうするかを検討しないといけないと思う。
 様々な面から修正すべき点、また、加えるべき施策等の意見を頂戴した。冒頭で事務局からの説明もあった通り、1月中旬頃に市民に見て頂きさらに意見を頂戴する。
 2月中旬にパブリックコメントを締め切り、そこから修正する流れとなる。

3. その他

- ・事務局：今回の協議内容でいろいろ修正点があったため、一旦事務局側で預かって修正し、各委員に1回お示しした後、来年1月ぐらいにパブリックコメントを実施する。
 次回の協議開催は、パブリックコメントが終了後の2月下旬頃を予定している。予定通りに進めば計画策定については、パブリックコメント後の次回(2月下旬)の協議会で完了となる。

4. 閉会

- ・事務局：本日は以上で第5回香美市地域公共交通活性化協議会を閉会する。
 (閉会挨拶)

以上